

龍ヶ崎市 企画課 御中

# 分析レポート

活気あるまちの実現には、地域資源をどのように活かしていけばいいと思いますか？

**PoliPoli** Gov

2026年1月26日



# 意見募集の概要・実施結果

- 調査方法：デジタルツール「PoliPoli Gov」を用いたインターネットリサーチ
- 意見募集のテーマ
  - 活気あるまちの実現には、地域資源をどのように活かしていけばいいと思いますか？
- 調査期間：2025/12/01～2025/12/31（31日間）
- 調査地域：全国オンライン
- ページ閲覧数：1,687PV
- 総コメントユーザー数：178人（\*ユーザーIDの重複を削除した値より、ユニークユーザー(UU)数を算出）
- 総コメント投稿数：224件（\*コメント公開基準に抵触する非公開コメントを除外した値を算出）
- 回答者の属性（必須回答）：
  - 龍ヶ崎市との関わり:龍ヶ崎市に居住している,龍ヶ崎市に通勤・通学している,龍ヶ崎市で事業活動を行っている,龍ヶ崎市で公益活動を行っている
  - 性別：男性, 女性, 回答しない
  - 10代,20代,30代,40代,50代,60代,70代,80代以上

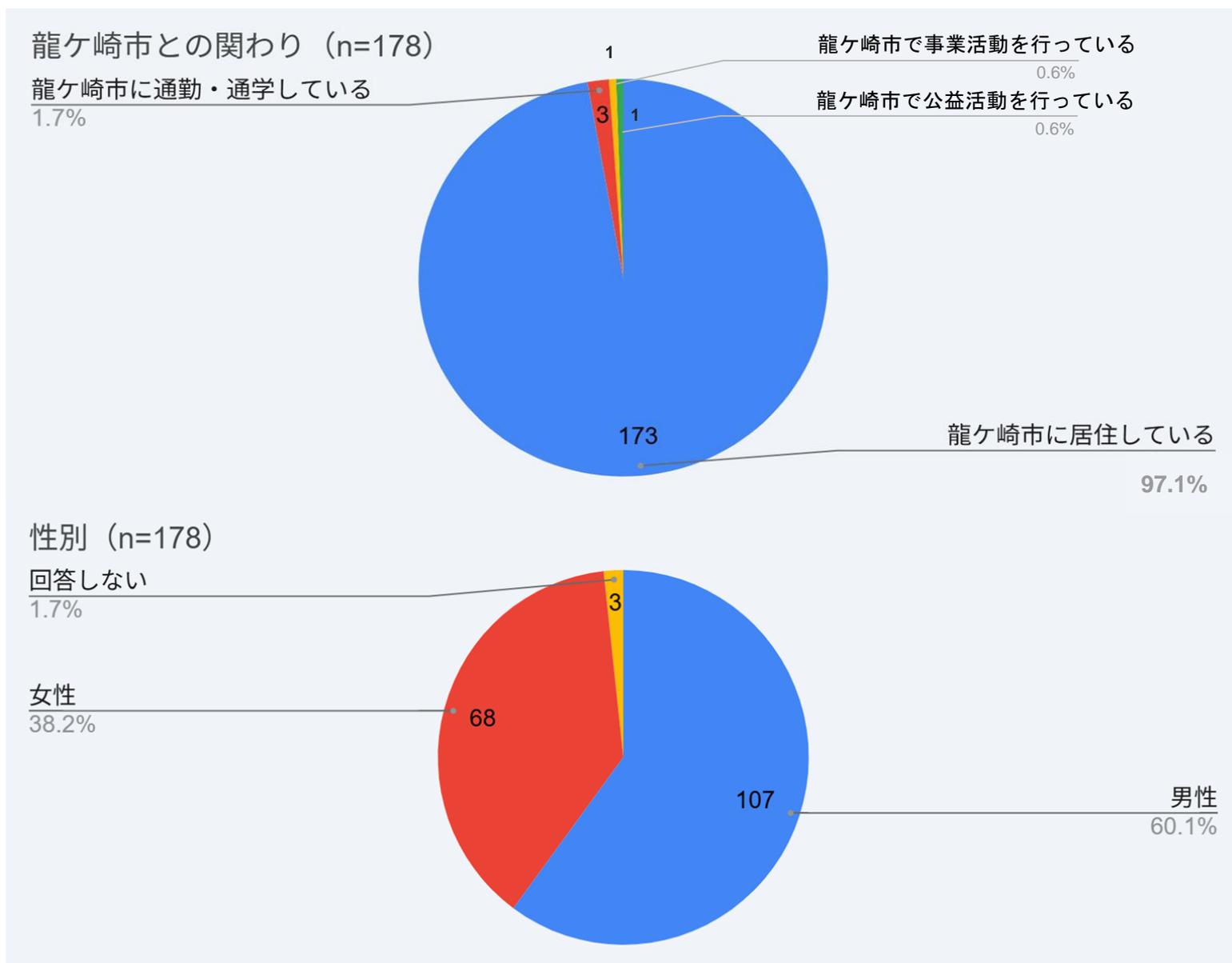
## 意見募集の仕組み



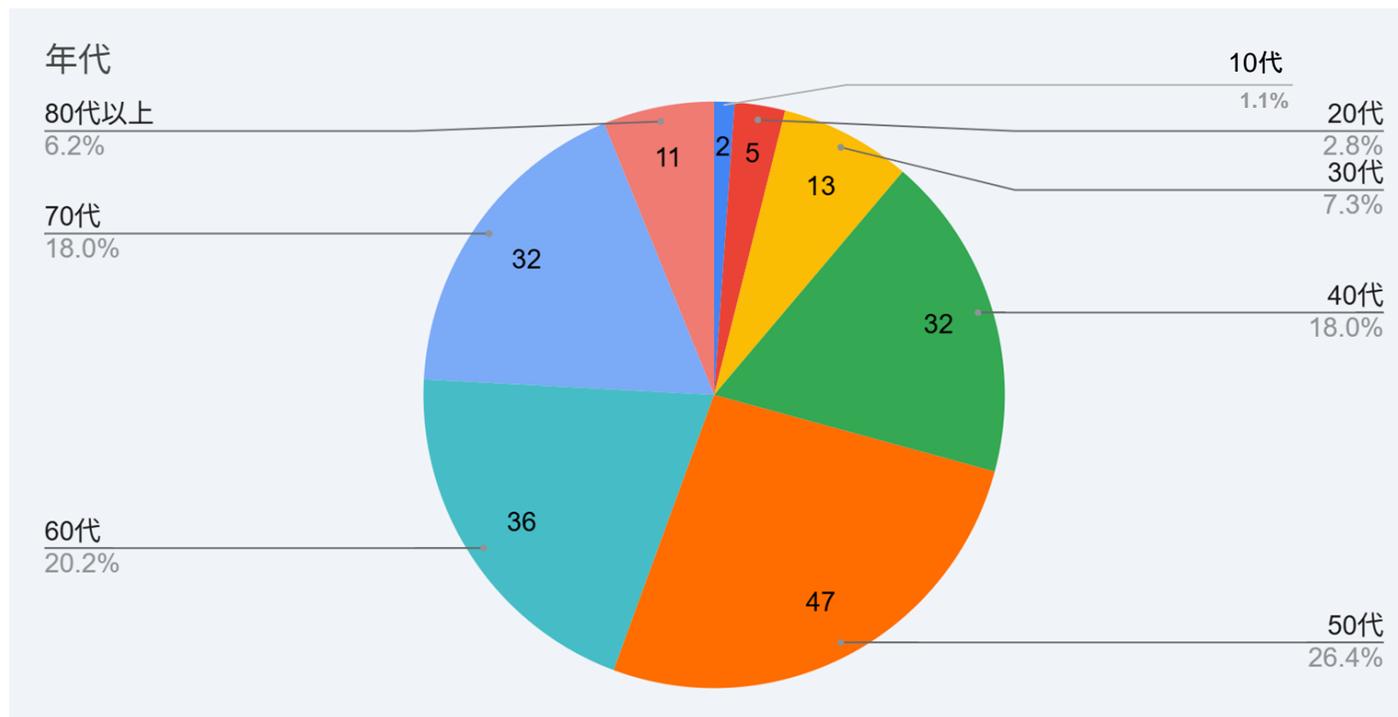
※プラットフォーム内のコミュニティを健全に保つため、投稿されたコメントが攻撃的な内容や広告目的と判断された場合に、運営側でコメントを非公開としています。



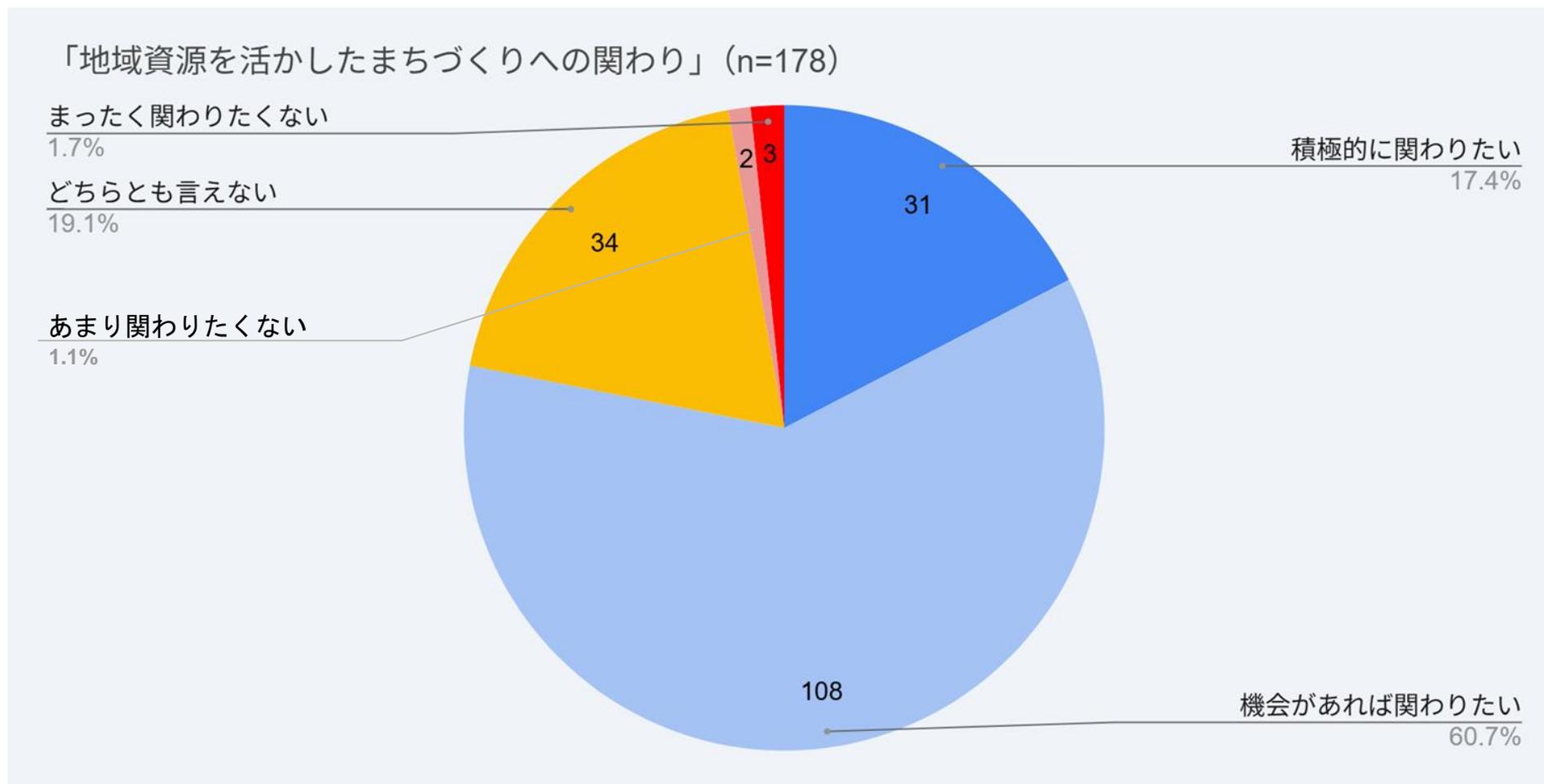
## 意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性



## 意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性



## 意見募集の概要・実施結果 | 選択式設問の結果



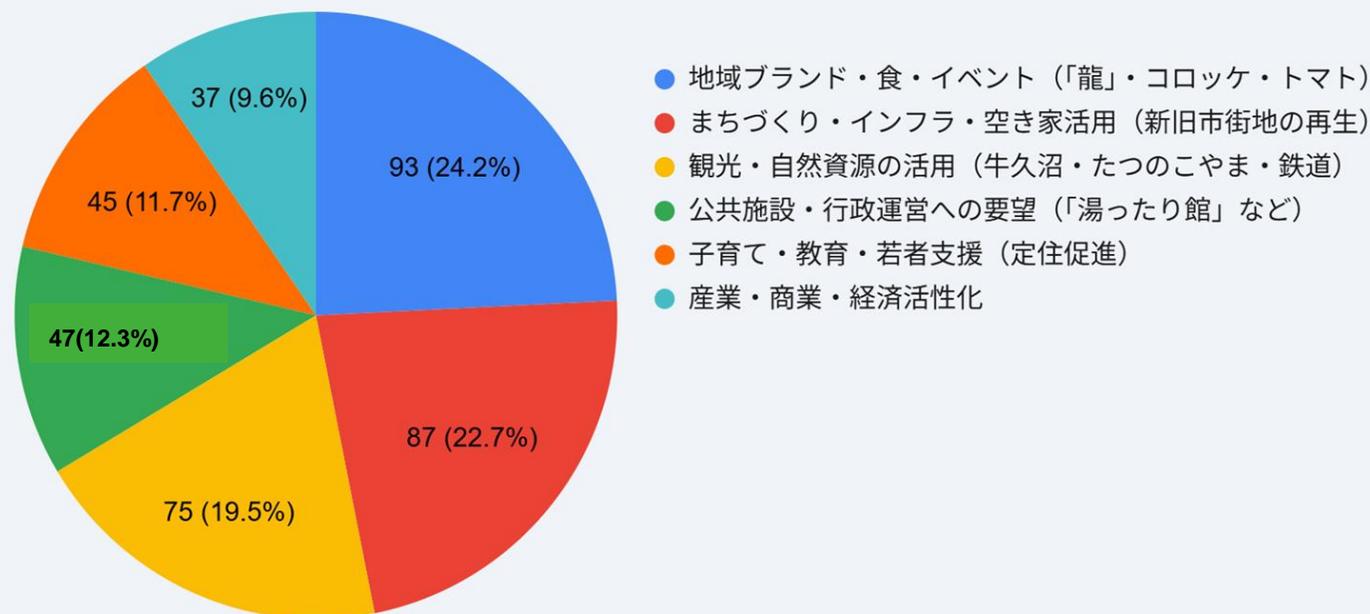
## カテゴリごとの分析 | コメントを6つのカテゴリに分類

### カテゴリ別コメント件数 (n=224、複数要素を集計)

全体の約3分の2が「地域ブランド・食」「まちづくり」「観光」の上位3分野に集中しており、市民は「ソフト面の賑わい」と「ハード面の生活基盤再生」の両立を強く求めています。

特に「食・イベント」が最多(24.2%)である点は重要で、コロッケや「龍」を活用した企画は市民の関心が高く、即効性のある活性化策として期待されています。一方で、駅周辺や旧市街地の再生(22.7%)や観光資源活用(19.5%)も僅差で続いており、単発のイベントに終わらせず、インフラ整備や既存資源(牛久沼・鉄道)の磨き上げを組み合わせ、持続可能な街の魅力向上策が不可欠であると言えます。

カテゴリ分類について (コメント224件より、複数要素を集計)



## カテゴリ

---

全件のコメントを下記7つのカテゴリに分類しました

- 地域ブランド・食・イベント（「龍」・コロツケ・トマト）
- まちづくり・インフラ・空き家活用（新旧市街地の再生）
- 観光・自然資源の活用（牛久沼・たつのか山・鉄道）
- 公共施設・行政運営への要望（「湯ったり館」など）
- 子育て・教育・若者支援（定住促進）
- 産業・商業・経済活性化

# カテゴリ詳細

全件のコメントを下記6つのカテゴリに分類しました

| カテゴリ                             | コメント概要   |
|----------------------------------|--|
| ①地域ブランド・食・イベント<br>（「龍」・コロッケ・トマト） | 市の知名度向上やイメージ戦略、ソフト面でのコンテンツ作りに関する意見です。 <ul style="list-style-type: none"><li>● 「龍」ブランディング:<ul style="list-style-type: none"><li>○ かっこいい市名ランキング上位を活かし、ドラゴンに関連したコラボやキャラクター戦略</li><li>○ 全国の「龍」がつく自治体との連携</li></ul></li><li>● 食の資源:<ul style="list-style-type: none"><li>○ 龍ヶ崎コロッケ、トマト（レディーファースト等）のさらなるPRと二次加工品の開発</li><li>○ 駅前や観光地でこれらを気軽に食べられる場所の設置</li></ul></li><li>● イベント・企画:<ul style="list-style-type: none"><li>○ 商店街でのキャンドルナイト、写真展、音楽フェス、マルシェ</li><li>○ 映画やドラマのロケ地（聖地巡礼）としてのPR</li></ul></li></ul>   |
| ②まちづくり・インフラ・空き家活用<br>（新旧市街地の再生）  | 「龍ヶ崎市駅（佐貫）」周辺の再開発と、「旧市街地（商店街）」の活性化、および空き家対策に関する意見です。 <ul style="list-style-type: none"><li>● 龍ヶ崎市駅周辺の再開発:<ul style="list-style-type: none"><li>○ 駅前に商業施設や飲食店、時間を潰せる場所が欲しい（「何もない」という不満）</li><li>○ 都心へのアクセス（常磐線・上野東京ライン）の良さを活かしたベッドタウン化の推進</li></ul></li><li>● 旧市街地・商店街の再生:<ul style="list-style-type: none"><li>○ シャッター街の解消と、レトロな街並み（昭和レトロ）を活かした観光・カフェ・雑貨店誘致</li><li>○ 歴史的建造物（小野瀬邸など）や路地裏の保全と活用</li></ul></li><li>● 空き家・廃校利用:<ul style="list-style-type: none"><li>○ 空き店舗や廃校を活用したシェアオフィス、合宿所、コミュニティスペース、ラジコンサーキットなどの提案</li></ul></li><li>● 交通網:<ul style="list-style-type: none"><li>○ コミュニティバスの利便性向上、千葉方面（成田空港・コストコ等）へのアクセス強化（若草大橋の活用）</li></ul></li></ul> |

## カテゴリ詳細

全件のコメントを下記6つのカテゴリに分類しました

| カテゴリ                       | コメント概要   |
|----------------------------|--|
| ③観光・自然資源の活用（牛久沼・たつのこやま・鉄道） | <p>このカテゴリには、既存の強力な資源（牛久沼、たつのこやま、関東鉄道）を「観光地」としてもっと磨き上げるべきだという意見が集約されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 牛久沼の活用:<ul style="list-style-type: none"><li>○ サイクリングロード、遊歩道、ランニングコースの整備（周遊性の確保）</li><li>○ 「道の駅」構想の代替案（カフェ、展望台、駐車場、キャンプ場、グランピング）</li><li>○ 水辺の景観や夕日の美しさを活かした観光スポット化</li></ul></li><li>● たつのこやまの魅力向上:<ul style="list-style-type: none"><li>○ イルミネーションやライトアップによる名所化</li><li>○ イベントステージの活用、ドッグランや飲食施設の併設</li></ul></li><li>● 関東鉄道竜ヶ崎線の観光化:<ul style="list-style-type: none"><li>○ 「鉄道博物館」の新設、SLやレトロ車両の動態保存・展示</li><li>○ レトロな車両を活用した観光路線の確立</li></ul></li><li>● 自然体験:<ul style="list-style-type: none"><li>○ 森林公園（アドベンチャーバレー・龍ヶ崎）のさらなる活用や改善要望</li><li>○ キャンプや釣り、カヌーなどアウトドア体験の充実</li></ul></li></ul> |
| ④公共施設・行政運営への要望（「湯ったり館」など）  | <p>特定の公共施設の存廃や、行政の姿勢、税金の使い方に関する意見です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 「湯ったり館」について:<ul style="list-style-type: none"><li>○ 閉館を惜しむ声、再開やリニューアル（宿泊施設・温泉・道の駅機能）を熱望する声が多数</li><li>○ 跡地の有効活用（単なる公園ではなく集客施設へ）</li></ul></li><li>● 行政・税金:<ul style="list-style-type: none"><li>○ 箱物行政への批判、税金の無駄遣い（駅名変更など）への不満</li><li>○ 広報のあり方（YouTube活用、LINE活用）や、市民の声を聞く姿勢への要望</li><li>○ 街の美化（雑草除去、清掃）といった基本的な管理への要望</li></ul></li></ul>  |

## カテゴリ詳細

全件のコメントを下記6つのカテゴリに分類しました

| カテゴリ               | コメント概要  |
|--------------------|---|
| ⑤子育て・教育・若者支援（定住促進） | <p>「子育て環境日本一」を掲げる市に対し、実質的な環境整備を求める切実な声です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 遊び場の拡充:<ul style="list-style-type: none"><li>○ 天候に左右されない「屋内遊び場（児童館）」の設置要望が多数。</li><li>○ 公園遊具の充実、安全な遊び場の確保</li></ul></li><li>● 若者・子育て世代への支援:<ul style="list-style-type: none"><li>○ 給食費無償化、医療費支援など、経済的なメリットの提示</li><li>○ 若者が集まれる場所、おしゃれなカフェやショップの誘致</li></ul></li><li>● 教育:<ul style="list-style-type: none"><li>○ 農業体験、自然体験を通じた食育や学習環境の整備</li></ul></li></ul> |
| ⑥産業・商業・経済活性化       | <p>税収増につながる企業誘致や、市民が市内で消費できる商業環境を求める意見です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 企業・商業施設の誘致:<ul style="list-style-type: none"><li>○ 大型ショッピングモール、アウトレット等の誘致（近隣市への流出防止）</li><li>○ 企業誘致による雇用創出と税収アップ</li></ul></li><li>● 農業の活性化:<ul style="list-style-type: none"><li>○ 体験農園、貸し農園の整備</li><li>○ 特産品開発による農業支援</li></ul></li><li>● 新しい産業:<ul style="list-style-type: none"><li>○ ドローンや自動運転の実証実験都市としての活用</li></ul></li></ul>                          |

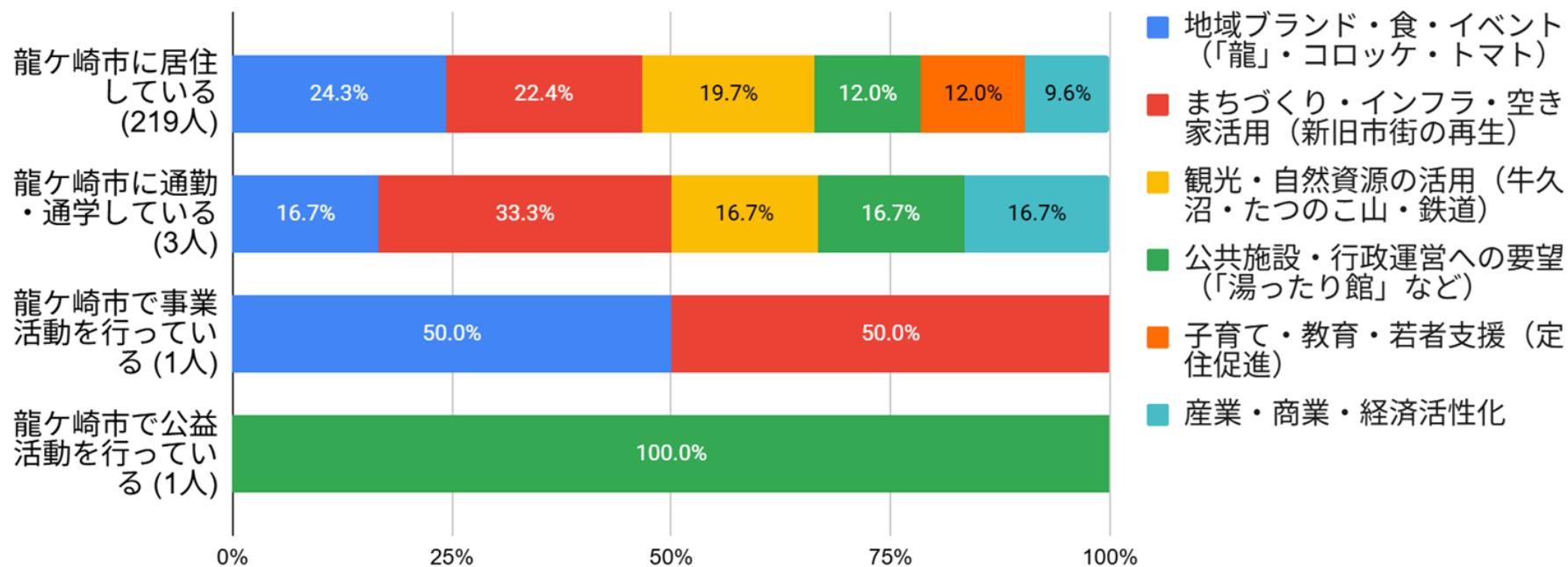
# クロス分析と考察

# 龍ヶ崎市との関わり × カテゴリ のクロス集計

回答者の約98%（224人中219人）が「龍ヶ崎市に居住している」層であり、結果は実質的に「市民（居住者）の意見」と捉えることができます。

その中で、「地域ブランド・食・イベント」24.3%が最大で、次いで「まちづくり・インフラ・空き家活用」22.4%、「観光・自然資源の活用」19.7%が続きます。残りも公共施設・行政運営（12.0%）、子育て・教育・若者支援（12.0%）、産業・商業・経済活性化（9.6%）と一定の比重があり、関心が一領域に偏るといより「魅力づくり」と「基盤整備」を並行して前に進めてほしい構図が出ています。

## ①あなたと龍ヶ崎市との関わり × カテゴリ のクロス集計



## 性別 × カテゴリ のクロス集計

男女ともに上位は共通で、地域ブランド・食・イベント（男24.3%・女24.8%）とまちづくり・インフラ・空き家活用（男23.0%・女21.6%）が軸になっています。大きな優先順位の違いは出ておらず、まずは魅力づくり＋基盤整備を求める構図は性別をまたいで安定しています。

差が出ているのは中位以下で、男性は「観光・自然資源」（21.3%）と「公共施設・行政運営」（13.7%）がより高めなのに対し、女性は「子育て・教育・若者支援」（15.0%）が男性（9.3%）より明確に高く、産業・商業（10.5%）も男性（8.4%）よりやや高めです。

②あなたの性別 × カテゴリ のクロス集計



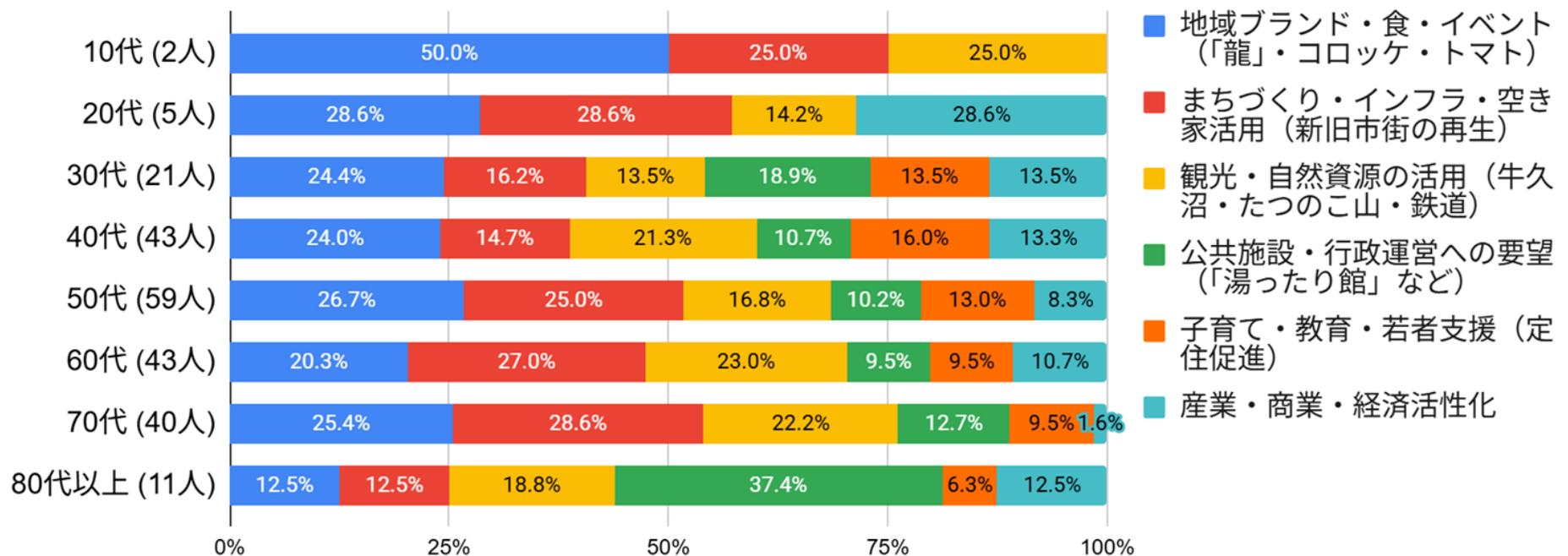
## 年代 × カテゴリ のクロス集計

全体としては地域ブランド・食・イベントとまちづくり・インフラ・空き家活用が多く年代で上位に入りつつ、年代が上がるほど「生活の足回り・施設」寄りに重心が移る構図です。

特に60代（インフラ27.0%・観光23.0%）・70代（インフラ28.6%・観光22.2%）は、将来像の議論というより「暮らしの維持に効くテーマ」への関心が強めに出ています。

一方でライフステージ差もはっきりしていて、40代は子育て・教育（16.0%）が相対的に高く、80代以上は公共施設・行政運営（37.4%）が突出しています。若年層はnが小さい前提ですが、10代はブランド・イベント（50%）に集中、20代はブランド・インフラ・産業が各28.6%で並び、「楽しさ+仕事・稼ぎ口」系の入口が合いそうです。

### ③あなたの年代 × カテゴリ のクロス集計



## 地域資源を活かしたまちづくりに関わりたい × カテゴリ のクロス集計

積極層（40人）・機会があれば層（135人）は構成が近く、いずれも上位は地域ブランド・食・イベント（約24%）、まちづくり・インフラ・空き家活用（約23~26%）、観光・自然資源（約19~22%）の三本柱です。  
一方、どちらとも言えない層（44人）は、インフラ・空き家が17.1%まで下がる代わりに、公共施設・行政(14.3%)と子育て・教育（15.7%）が相対的に伸び、「賑わい」よりも生活サービス寄りの論点で態度が決まりやすい可能性が示唆されます。

### あなたは、地域資源を活かしたまちづくりに関わりたいと思いますか？ × カテゴリ のクロス集計



# カテゴリごとの 代表的なコメント

## 代表的なコメント まちづくり・インフラ・空き家活用（新旧市街地の再生）

- 男性,50代,「私は九州からの転勤者です。龍ヶ崎本町商店街は建物が古くシャッター商店街となっていますが、あえてレトロ感を活かし、昭和レトロの街として活かしてはと常々感じます。ヤル気のある方々に無料に近い価格で貸し出す事は出来ないでしょうか。」
- 男性,60代,「最大の資源は「東京駅まで1時間の立地の良さ」です。都内では新築は勿論中古マンションでも1億円越え。郊外への住宅を求め子育て世代の移住が見込まれます。（中略）龍ヶ崎市駅前はと言うと、駅に降り立った瞬間「これが駅前!?☒」と愕然とし即座に改札に戻る事でしょう。（中略）そこで、提案です。①高層マンション建築可能な土地規制の撤廃。②駅前4車線道路両側にパリの市街地を思わせる中層マンションの建設。（後略）」
- 男性,80代以上,「歴史文化の視点で、県南では一番面白い地域です。しかし、みんなが知らないので価値ある歴史文化財が毎年消えていっています。岡田邸のような建築物も壊されてなくなりました。（中略）そのためには、文化庁が旗を振っている「文化財保存活用地域計画」の策定をして市民にも知らせることをしてもらいたい。地域資源としての歴史文化を継続して保存活用することができるようになります。（後略）」

## 代表的なコメント 観光・自然資源の活用（牛久沼・たつのこやま・鉄道）

- 男性,10代,「開業125年の歴史を持つ関東鉄道竜ヶ崎線は、現在、地域輸送に特化しており観光要素が不足しています。（中略）龍ヶ崎版「鉄道博物館」の設立 竜ヶ崎駅車庫の近く（隣）にある旧「アイエフ」跡地を活用し、車両展示施設（博物館）の建設を提案します。（中略）博物館を作ることで鉄道愛好家の方だけでなく、龍ヶ崎市の観光に来た方も楽しみ、活性化の起爆剤となり得ます。ぜひご検討をお願いいたします。」
- 男性,70代,「牛久沼は本市にある手つかずの水辺自然資産である。古くは県主導、近くは龍ヶ崎市による道の駅構想など活用の試みは計画されたがいずれも頓挫している。（中略）とりあえず、牛久沼周辺エリアの名称、活用ビジョン、エリアの交通標識や施設のサインの共通化などについて決めてはどうか。これにより、周辺自治体のイメージの共有化が図れるのではないか。（後略）」
- 男性,40代,「“日常のしあわせ写真館” — 市民の日々を宝物として展示するコミュニティ企画「龍ヶ崎の日常」をテーマに、市民が撮った写真を集めて“暮らしの美術館”を期間限定で開く。（中略）“特別な観光資源”ではなく、このまちで生きる人の「日常こそ宝物」という感覚を共有できる企画。これが、外から来る人にも「あ、このまちは人があったかいんだ」と伝わる“最強のブランド”になる。」

## 代表的なコメント 公共施設・行政運営への要望（「湯ったり館」など）

- 女性, 50代, 「湯ったり館という温泉施設はどうなったのだろうか？宿泊が赤字だったら、コミュニティの場所に開放してもいいし、もっと利用できたと思います。病院や医療を頼るだけじゃなく、予防やセルフメディケーションといわれている中で、これからでも再生することはできないのかなと思っています。」
- 女性, 50代, 「湯ったり館の建直しのために市民からクラウドファンディングを実施して、金額により建直し後利用券や市内のお店で使用出来る金券の配布などを行う。（中略）市民の為にもう一度新しく地域資源を作る事も大切だと思います。場所的にも自然が感じられ、心の洗濯が出来るとと思います。また市民の雇用にもなるとと思います。」
- 男性, 30代, 「龍ヶ崎市もふるさと納税に力を入れ始めました。とても良い取り組みだと思います。全国的に、ふるさと納税で稼いで、市民サービスに繋げてる事例は多数あります。（中略）財政的に余力のあるうちにいかに取り組むかが大事だと思いますので、地域資源をどんどんふるさと納税に活用して欲しいです。」

## 代表的なコメント 地域ブランド・食・イベント（「龍」・コロッケ・トマト）

- 男性, 50代, 「市内にある「龍」にまつわる資源をコンテンツ化し、ネットを通じて発信することです。「龍ヶ崎＝竜のまち」という共通のテーマで整理し、物語性のあるコンテンツとして発信することで、他市町村にはない独自の魅力を明確に打ち出すことができます。（中略）市長の発信力を軸に、「竜のまち龍ヶ崎」という一貫したメッセージをネット上で発信することで、人の関心と行動を生み出し、活気あるまちづくりにつなげていけると考えます。」
- 女性, 40代, 「①牛久沼に浮かぶ小島が、ずっと気になっています。あの島を竜宮城として、カフェorカヌー小屋等とする。浦島太郎をイメージして、島に渡る船はもちろん亀形。（中略）③全体的に、テーマを決めて統一して町おこしをする。例えば、「コロッケとまいりゅうと竜宮城」「コロッケとうなぎとコーヒー」等。他の方が書いていらっしゃる、歴史的建造物でとむとむのコーヒーをいただく、とか最高🔥☑️」
- 男性, 60代, 「関東鉄道龍ヶ崎線に定期的に歴史館においてある蒸気機関車を走らせることを検討して欲しい。蒸気機関車で龍ヶ崎駅にきたお客様に対応するべくコロッケを龍ヶ崎駅内またはその周辺にお店を作る。又はコロッケツアーバスを出す。（中略）龍ヶ崎市駅を花でいっぱいにする。花壇を増設して民間企業に無料で管理して貰う。（中略）龍ヶ崎市駅のアピールになる。」

## 代表的なコメント 子育て・教育・若者支援（定住促進）

- 女性,30代,「児童館にあたる施設がないので作って欲しいです！！子育て環境日本一を掲げるならば、ぜひ作ってほしいです。（中略）屋外には、水遊びや大型遊具、芝生広場、屋内にはプレイルーム、音楽スタジオ、調理コーナー、パソコンコーナー、創作コーナーなどがあり、多目的に遊べます。家でYouTube漬け、ゲーム漬けになる子どもが減るだろうと思います。4歳以降、暑い夏や雨の日に子どもが過ごせる場所がないのに子育て環境日本一とは言えないと思います。」
- 男性,50代,「子供達が安心して遊びや体験が出来る施設の設置(アンデルセン公園の様なもの)。龍ヶ崎は住むには便利で良い場所ですが、娯楽や家族でゆっくり過ごせる場所が無いと思います。（中略）世の中全体的に安全面を考慮して、老朽化を理由に公園や学校の遊具を減らしてますが、結果子供達の身体能力の低下を招き、逆効果になっていると感じる。」
- 女性,50代,「農業の有り難みが益々深くなり、農作物を作る大変さも強さも 子供の頃から体験すべきだと思います。家族などで 田植えや稲刈り、野菜作りなどの体験イベントが、もっとできたら楽しいし、いい勉強になると思う。（中略）できた農作物でお料理教室とか、楽しいのではないのでしょうか？」

## 代表的なコメント 産業・商業・経済活性化

- 男性, 30代, 「日中は最近話題のスーパーが出来市外からも龍ヶ崎市に来る理由になってると思いますが、夜は市民目線と言っても行く理由が全くありません。（中略）龍ヶ崎市駅の近くに飲み屋横丁的なのがあれば途中駅を降りたりみんな夜に龍ヶ崎に来る目的が出来るとは思いませんかと思います。また、昼はイタリアンのお店がランチ営業をして夜は別のお店がバーになるなどの2部制にすればお客さんが昼間来て賑わう、その分賃料を安くすれば出店者はお店を出しやすいなどの制度もいいと思います。」
- 女性, 40代, 「自動運転や自動配送やドローン配送の実証実験の場所を提供する事で、企業誘致や過疎地域へのサービス充実が図れたりしたら、それなども良さそうだと思います！」
- 女性, 60代, 「大昭ホールで開催されるイベントに、他市町村から来てくださっても、近くのお店はラーメンやさんしかないので、もっとおしゃれなレストランやカフェ等が出来たら、イメージアップに繋がるとと思います。（中略）終演後には、わざわざ、遠くのお店まで行こうという気にはならないです。おしゃれで、気軽に立ち寄れるようなお店を、建物周辺に誘致して頂けたらと思います。」

# 総合考察

## 1 総論：高い当事者意識と「潜在能力」への期待

回答者の98%が市内居住者であり、批判だけでなく具体的かつ専門的な提案（鉄道博物館構想、古民家活用、イベント企画等）が多数寄せられました。これは市民の市政への関心の高さと、「龍ヶ崎にはポテンシャルがあるのに活かしきれていない」という共通した想いの表れと言えます。

## 2 市民が求める3つの重点戦略

アンケート分析から、市民が求めているのは大規模な箱物行政ではなく、「今ある資源の価値化」と「ソフト面の充実」と拝察します。

### ● ①「龍・食・鉄道」によるブランド体験の創出（ソフト戦略）

「地域ブランド・食」への関心が最も高く、単なるグルメ（コロケ・トマト）に留まらない、「龍（ドラゴン）」という市名のユニークさを活かしたストーリー性のあるブランディングが求められています。また、関東鉄道竜ヶ崎線などの鉄道遺産を「移動手段」から「観光アトラクション（鉄道博物館・SL）」へと昇華させ、市外からの来訪動機を作ることも有効と考えます。

### ● ②新旧資産のハイブリッド活用（ハード・空間戦略）

「旧市街地の古民家・商店街」「廃校」「湯ったり館跡地」など、既存の遊休資産のリノベーションを求める声があります。ニュータウン（機能性）と旧市街地（歴史・情緒）という異なる特性を持つエリアを、「昭和レトロ」や「路地裏散策」といった文脈で再評価し、若者や起業家が参入しやすい土壌（家賃補助や規制緩和）を作ることも有効と考えます。

### ● ③「住み続けたいくなる」居場所と時間のデザイン（生活戦略）

子育て層からは「天候に左右されない屋内遊び場」、現役世代からは「駅周辺のナイトタイムエコノミー（夜の賑わい）」、高齢層からは「コミュニティの再生」が強く要望されています。単に住むだけでなく、「市内で楽しみ、市内で消費し、市内で交流する」ための受け皿（サードプレイス）を整備することも重要と考えられます。

## 3 行政主導から「共創」へのシフト

多くのコメントが「参加したい」「関わりたい」という意欲を示しています。今後のまちづくりにおいては、行政が全てを用意するのではなく、「市民のアイデア（ソフト）を行政がフィールド（ハード）提供で支える」という官民共創のスタンスが重要と考えられます。

*PoliPoli* Gov